

令和4年度新規発行

高等学校国語教科書

学習課題ノート見本

〔特徴〕

- ・ 自学自習を支援する、各教科書完全準拠のノートです。
 - ・ 教材内容・構成のまとめから各設問に入っていくことで、より深い理解に導きます。
 - ・ 各教材の目標に即した課題を設定することで、
- 学習到達度の確認や、観点別評価の資料としてもご利用いただけます。

『精選 現代の国語』（第二単元「水の東西」）

『新 現代の国語』（第六単元「折々のことば」「宝探してみたいに本の世界へ入っていきます」）

『精選 言語文化』（古文編第二単元「徒然草」）

『新 言語文化』（第三単元「伊勢物語」）

現国 704



言文 703



現国 705



言文 704



三省堂

※この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成しています。

※紙面・内容は2022年5月現在のものです。

▼比較という方法を理解し、文化について考える

検印

漢字・語句を確認しよう

1 次の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

① 一端

② 跳ねる

ねる

③ 静寂

④ 素朴

⑤ 華やか

やか

⑥ 凝らす

らす

⑦ 郊外

⑧ 乏しい

しい

⑨ 乾く

く

⑩ 間隙

⑪ 鑑賞

⑫ 極致

2 次の——線部のカタカナを漢字で書きなさい。

① 床がカタムく

② ユルやかな坂

③ トロウに終わる

④ オンキョウ設備

⑤ 自己シヨウカイ

⑥ イソガしい毎日

⑦ 長いカンカク

⑧ マドを開ける

⑨ 動物のムレ

⑩ 庭をウめつくす

⑪ ジュモクが茂る

⑫ 料理のソえ物

3 次の語句を使って短文を作りなさい。

① いやがうえにも

② 息をのむ

4 次の語の対義語を書きなさい。

① 緊張

② 単純

③ 無限

④ 有名

⑤ 自然

⑥ 受動的

⑦ 積極的

⑧ 間接

⑬ ソウダイな夢

⑭ コれ動く

⑮ デントウ芸能

⑯ タキを見上げる

⑰ 池をホる

⑰ ネンド細工

⑰ 調査タイシヨウ

⑲ 反則コウイ

次の空欄に本文中の言葉を入れ、全体の構成を理解しよう。

流れを 感じさせる水 (初め〜33・9)	①「は、単純なリズムを無限に繰り返し、流れをせき止めることによって、かえって」②の存在を強調している。
空間に 静止する水 (33・10〜35・4)	欧米にはいたるところに、その大きくて立派な③④「があらは、彫刻のように空間に静止しているように見えた。」
日本人の感性 (35・5〜36・5)	日本人は、水は⑤「ではなく、⑥」を美しいと感じていたため、日本の伝統には噴水がなかった。「行雲流水」という思想は、流れる水のよう⑦「の現れである。」
「鹿おどし」が表すもの (36・6〜終わり)	⑧「が大切なのだとしたら、もはや水を見る必要さえない。断続する音の響きから、心で味わえばよい。「鹿おどし」は、日本人が⑨「の極致を表す仕掛けといえる。」

1 「なんとなく人生のけだるさのようなものを感じる」(32・1)とあるが、その感情は「鹿おどし」のどのようなことから生じるのか。本文中からあてはまる部分を二箇所抜き出さない。

「
」

2 「こおんと、くぐもった優しい音」(32・5)について、次の問いに答えなさい。

①これはどのような音を表現しているか。適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 金属的で、甲高い響きの強い音。
- イ 不鮮明で、余韻のある穏やかな音。
- ウ 反響は鋭く乾いているが、弱い音。
- エ 高低の音域が広い、しとやかな音。

②これを他のところでは何と言い換えているか。本文中から二箇所抜き出さない。

「
」

③この音は何を強調するのか。本文中から十字で抜き出さない。

3 「それ」(32・10)とは何を指すか。本文中から五字で抜き出しなさい。

--	--	--	--	--

4 「流れる水と、噴き上げる水」(33・9)とは、それぞれ具体的に何を指しているか、答えなさい。

- ・流れる水 []
- ・噴き上げる水 []

5 「壮大な水の造型」(35・1)を、筆者は何にたとえているか。本文中から十字で抜き出しなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

6 「空間に静止している」(35・3)とは、どういうことか。適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「鹿おどし」の水は部分的に見れば流れているが、全体として見ると、空間にしっかりと存在を示しているということ。
- イ 噴水は、さまざまな趣向を凝らし、いたるところで風景の中心として林立しているということ。

ウ 噴水は、その仕掛け自体は人工的なものであるが、そこを流れる水に定まった形はなく、自然な状態にあるということ。

エ 噴水という大きくて立派な人工の造型物は、水の動きを圧して、空間に確固たる位置を占めて存在しているということ。

--

7 「時間的な水と、空間的な水」(35・4)とは、どういうことか。次の文の空欄にあてはまる言葉を考え、説明しなさい。

- ・「時間的な水」とは、

--

が、

--

ことによって、人に
- ③

--

を感じさせるとのこと。
- ・「空間的な水」とは、

--

が、

--

ことによって、人に
- ⑥

--

を感じさせるとのこと。

⑥	⑤	④	③	②	①
[]	[]	[]	[]	[]	[]

8 「日本の伝統の中に噴水というものは少ない」(35・5)のはなぜか。筆者の考えとして適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本はヨーロッパとは気候風土が異なるから。
- イ 日本人には噴水を作る技術がなかったから。
- ウ 日本人は流れる水が美しいと考えていたから。
- エ 日本人は形なきものを恐れる心をもっているから。

--

9 「それ」(36・3)とは何を指すか。適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 形がないということに対する、日本人独特の好み。
- イ 「行雲流水」という、思想以前の感性に裏つけられた仏教的な言葉。

ウ 外界に対して受動的な態度をとるのをよしとする、日本人に備わった思想以前の感性。

エ 形なき自然を、積極的に恐れないという心の現れ。

10 「見えない水と、目に見える水」(36・5)のような対句的表現は、本文中で三度用いられている。これらの表現は、文章の構成や展開の上で、どのような効果を果たしているか。適切なものを次の中から全て選び、記号で答えなさい。

- ア 日本文化と西洋文化の優劣を提示し、日本文化が優れていることを強調している。
- イ 日本文化と西洋文化を対比的に提示し、それぞれの特性を際立たせている。
- ウ 前の段落で述べられている内容を要約し、象徴的な言葉で印象づけている。
- エ 次の段落で述べる内容が予測できるように、簡潔にまとめた言葉で見出しを示している。

11 「鹿おどし」は、日本人が水を鑑賞する行為の極致を表す仕掛けだといえるかもしれない。(36・8)とあるが、なぜそう言えるのか。「鹿おどし」は、「」に続けて、五十字以内で説明しなさい。

「鹿おどし」は、

- 12 本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 西洋人が造型することで浮かび上がる水の美しさを好んだのに対し、日本人は自然のまま、ありのままの水の美しさを好んだ。
 - イ 日本人が噴水を作らなかつたのは、日本の空気が湿っていて噴き上げる水を必要としなかつたことと、技術を持ち合わせていなかったことが主な理由である。
 - ウ 噴水が水の音を聴覚で味わう芸術であるのに対し、「鹿おどし」は竹が跳ね上がる日本人の知恵を視覚で鑑賞する装置である。
 - エ 「行雲流水」という思想は、外界に起こる諸現象を受動的、消極的に受け入れるということではなく、形がないものを造型して、むしろ顕在化させるといふ積極的な姿勢である。

✓ 振り返ろう

□ 比較の方法と効果について理解することができた。

説得力を高める

折々のことば

教科書 P.128 ~ P.129
 驚田清和
わしだきよかず

目標

●引用の目的やはたらきを
 理解する

検印

学習活動に取り組もう

1 筆者はなぜ芦田愛菜さんの文章を引用したのだろうか、推論しよう。

1 次の文章を「折々のことば」と読み比べて、気づいたことや印象の違いをメモしよう。

「僕は文字といえばお経と『家庭の医学』しかない家で育ったので、初めて本を一冊読み通したのは十六の時でした。まるでその本が僕に向けて書かれたような経験でした。」

2 自分の「折々のことば」を見つけよう。

1 これまでの生活や読書経験の中から、納得した言葉や共感した言葉、自分の好きな言葉を見つけ、書き出そう。

あまんきみさんの本をにこんなことが書いてあったんだ。

「うつくしいものに出会ったら、いつしゅうけんめい見つめなさい。見つめると、それが目ににじんで、ちゃあんと心にすみこくのよ。そうするで、うつくだって目のまえに見えるようつくなるわ」

いい言葉だね。三太くんは、どうしてこの言葉がいなくなって思ったの？ あと、その言葉がどの本に書いてあったのか、わかるかいよね。



説得力を高める

宝探してみたいに本の世界へ入っていきます

教科書 P.130 ~ P.136
あしだまな
芦田愛菜

目標

●説明の仕方を考える

検印

全体の構成を理解しよう

<p>読書の魅力 (初め〜132・3)</p>	<p>・本が好きな理由：まず一つは、活字から自分の想像で物語の世界をつくりあげていく楽しさ。</p>
<p>疑似体験 (132・4〜133・1)</p>	<p>・本が好きな理由：もう一つは、自分とは違う誰かの人生や心の中を知ること。 ↓「疑似体験」：お芝居にも通じる。</p>
<p>おすすめの本？ (133・2〜134・7)</p>	<p>・「おすすめの本は何？」と聞かれると悩む。 本は自分で探したりめぐりあったりするからおもしろい。 ↓大切な本との出会いを私が決めていいのかな？</p>
<p>本と一緒に人生を (134・8〜終わり)</p>	<p>・本がない人生なんて考えられない。 ・本は人と人をつなぐコミュニケーションツール。 ・これからも本を好きでいたい。</p>

漢字を確認しよう

1 次の——線部の漢字は読みを、片仮名は漢字を書きなさい。

- ① 子どものコロ [] の遊び。
- ② 絵画の魅力 [] に気づく。
- ③ 再考のヨチ [] がある。
- ④ 掃除機でス [] い込む。
- ⑤ 箱にぎつしりとツ [] まる。
- ⑥ 芝居 [] の稽古をする。
- ⑦ 疑似 [] 体験できる。
- ⑧ 音が遠くまで響 [] く。
- ⑨ 黙々 [] と読み続ける。
- ⑩ イソガ [] しい毎日。

③ 「自分とは違う誰かの人生や心の中を知ること」で筆者は何を感じるか。本文中から五字で抜き出しなさい。

③ 教科書133ページ2行めく134ページ7行めまでを読んで、筆者の考えを捉えよう。

1 「そのたび」(133・3)が指す内容は何か。本文中の語句を用い、「…たび」で終わる形にして二十五字以内で答えなさい。(句読点や記号も一字に数える。)

2 「『うーん、おすすぬかあ……。』と悩んでしまいます」(133・3)とあるが、悩むのは、筆者にどんな考えがあるからか。次の中から二つを選び、記号で答えなさい。

- ア どんな本もおもしろく、いろいろな人に読んでほしいので、特に誰かにすすぬたい一冊を決めるのは無理である。
- イ 人それぞれの見方や考え方が異なるため、筆者にとって感動的な本であっても、他の人の心にも響くとは限らない。
- ウ これまでの人生で他人にすすぬる目的で本を読んでこなかったし、他人にすすぬるために本を読む必要もない。

工 自分自身が惹かれて選んだ本が人生を変える「運命の一冊」になるので、その出会いを他人が決めるべきはない。

オ その人にふさわしい本であっても、他人がすすぬたとたん読む気が起きなくなるのが人間の性質である。

--	--

3 「誰かに『はい！これ』って差し出されただけじゃちよつとつまらない」(133・10)というのはなぜか。次の空欄にあてはまる語句を本文中から抜き出しなさい。

誰かに差し出されただけでは、①を②するの

と同様の、自分で探し出した③

するおもしろさを味わえないから。

4 「気づいたら出会ってしまった」(133・12)とはどういう状況か。次の空欄にあてはまる語句を本文中から抜き出しなさい。(記号も一字に数える。)

「何だかこの本に①と

②して手に取ることで出会う状況。

④ 教科書134ページ8行めく135ページまでを読んで、筆者と本の関わりを捉えよう。

1 筆者が「本がない人生なんて考えられなくて」(134・8)という

のはなぜか。適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 本を一冊作り上げていくように人生を送っているということ。
- イ 何事も本に教えてもらわなければ生きていけないということ。
- ウ 読書が不可欠な楽しみとして生活に定着しているということ。
- エ 現実が厳しく常に本の世界に逃げ込む必要があるということ。

2 「本と一緒に人生を歩めている」(134・11)とあるが、本を読むことは筆者にどんなことをもたらしているか。次の空欄にあてはまる語句を本文中から抜き出しなさい。

- ・文字が ① となつて ② こと。

・筆者の体の中に ③ の経験が疑似体験したように ④ いること。

3 「小さい頃の自分」(134・12)とあるが、筆者は小さい頃、本とどうかわっていたか。次の空欄にあてはまる語句を本文中から抜き出しなさい。

① が ② に読んでくれたり、
 ③ をつくってくれたりし

たため、多くの本に親しんでいた。

4 「読み聞かせが」(135・5)で始まる段落は、本のもつどんな機能を説明するための例になっているか。「本は」に続く部分を、本文中の語句を使い、三十字以内で答えなさい。

本は

5 本文の内容を捉えよう。 **難**

- 1 本文の内容に合うものを次の中から二つ、選び、記号で答えなさい。
- ア 筆者が本を好きなのは、自由に物語世界を想像できるし、自分以外の誰かの考えや人生を疑似体験できるからである。
 - イ 筆者は芝居の仕事をしているが、誰かの人生を演じることと本の登場人物の人生を知るとは全く違うと感じている。
 - ウ 筆者が本好きなことを知っている人たちが本をすすめてくれることがあるが、すすめられたくないで困っている。
 - エ 人それぞれの見方や考え方があり、同じ本を読んでも解釈のし方で対立が起きることがあるので、筆者は悲しんでいる。
 - オ 小さい頃から本を読み、現在も本が好きで読み続けている筆者は、大人になってもずっと本が好きでいたいと思っている。

徒然草

…… 兼好法師

▼筆者の心情を読み取り、描かれた季節感や人生観について考える

検印

◆つれづれなるままに ◆ある人、弓射ることを習ふに

語句・文法を確認しよう

1 次の——線部の語句の本文中での意味を答えなさい。

①つれづれなるままに、(46・囲みー)

②日暮らし硯に向かひて、(46・囲みー)

③なほざりの心あり。(46・2)

④ねんごろに修せんことを期す。(47・4)

⑤いはんや一刹那のうちにおいて、(47・4)

2 次の——線部の用言の活用の種類と活用形を答えなさい。

①書きつくれば、(46・囲み2)

②弓射ることを習ふに、(46・1)

③二つの矢を持つことなかれ。(46・2)

④わづかに二つの矢、(47・1)

⑤道を学する人、(47・3)

活用	活用	活用	活用	活用
形	形	形	形	形

3 「つれづれなるままに」の本文中から係り結びの法則が見られる部分を探し、係助詞と結びの語を抜き出しなさい。

係助詞

結びの語

4 次の——線部の助動詞について、ここでの意味をそれぞれあとから選び、記号で答えなさい。(同じ記号を何度使ってもよい。)

①この一矢に定むべしと思へ。(46・3)

②おろかにせんと(47・1)

③思はんや。(47・1)

④この戒め、万事にわたるべし。(47・2)

⑤夕べには朝あらんことを思ひ、(47・3)

ア 推量 イ 意志 ウ 婉曲
 エ 当然 オ 可能 カ 適当

文章の理解を深めよう

1 筆者の『徒然草』執筆の態度や様子として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 主題が伝わりやすいように、緻密に計算して書いている。

イ 特に目的意識をもたずに、思いつくままに書いている。

ウ 心に浮かんだ雑多な思いを、頭で整理してから書いている。

エ 朝から晩まで机に向かつて、情熱をこめて書いている。

2 筆者は、『徒然草』にどのようなことを書き記すと述べているか。

適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 世の中の無常を考えるきっかけとなる逸話。

イ 人生の教訓となるような昔の有名人の逸話。

ウ ふと頭に浮かんで消えるたわいない考え。

エ 筆者が出家してからの毎日の生活の様子。

3 「師の前にて一つをおろかにせんと思はんや。」(47・1)の口語

訳として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 師匠の前で一本は練習として気楽に射ようと思わないだろうか。

イ 師匠の前で愚かにもその一本だけを射ようと思うだろうか。

ウ 師匠の前でその一本をいいかげんに射ようと思うだろうか。いや、思うはずがない。

エ 師匠の前でその一本を失敗しようと思うだろうか。いや、思うはずがない。

4 「師これを知る。」(47・2)とあるが、「これ」の指す内容を具体的に説明しなさい。

5 「懈怠の心」(47・5)と対照的な内容を、本文中から二十文字以内で二箇所抜き出し、初めと終わりの五文字ずつを記しなさい。

•							
•							
	?						
	?						

6 「道を学する人、……修せんことを期す。」(47・3)とあるが、そのことにはどのような問題があると筆者は言いたいのか、説明しなさい。

[]

7 この文章から読み取れる筆者の考えとして適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 武芸を修めようとする初心者には、気づかないうちに怠け心や油断が潜んでいる。これをなくして初めて芸道は上達する。

イ 武芸を修めようとする者には、気づかないうちに怠け心や油断が潜んでいる。しかし、その道の師匠ほどの人物になれば自分の怠け心に気づくことができる。

ウ 人の心の中には、気づかないうちに怠け心や油断が潜んでいる。そのため、人は何を学ぶにしても初めのうちはつまみかかない。

エ 人の心の中には、気づかないうちに怠け心や油断が潜んでいる。人はそのことに気づかないので、一瞬一瞬に全力を傾けることは難しい。

8 「懈怠の心あることを知らんや。」(47・5)の——線部と同じ意味のものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ただ一度にいらへむも、待ちけるかともぞ思ふとて、(児のそら寝)

イ いま一声呼ばれていらへむと、(児のそら寝)

ウ この道を立てて世にあらむには、(絵仏師良秀)

エ 仏だによく書き奉らば、百千の家も出で来なむ。(絵仏師良秀)

[]

◆神無月のころ

語句・文法を確認しよう

1 次の——線部の語句の意味として適切なものをそれぞれあとから選び、記号で答えなさい。

① さすがに住む人のあればなるべし。(54・4)

- ア 評判通りに イ そうはいつてもやはり
ウ そうだからこそ

② あはれに見るほどに、(54・5)

- ア しみじみと感慨深く イ しみじみと気の毒に
ウ しみじみとさびしく

③ 少しことさめて、(54・6)

- ア 寒々として イ 目が覚めて ウ 興ざめして

④ この木ならましかばと覚えしか。(54・6)

- ア 思い出す イ 思われる ウ 記憶する

2 次の——線部の助動詞について、a終止形と、bここでの活用形を答えなさい。

① ある山里に尋ね入ること侍りに、(54・1)

- a [] b []
形 形

② かくてもあられけるよと、(54・4)

- a [] b []
形 形

③ 枝もたわわになりたるが(54・5)

- a [] b []
形 形

④ 周りをきびしく囲ひたりこそ、(54・6)

- a [] b []
形 形

⑤ この木ならましかばと覚えしか。(54・6)

- a [] b []
形 形

3 次の——線部の文法的な説明として適切なものをそれぞれあとから選び、記号で答えなさい。

① 住む人のあればなるべし。(54・4)

② かなたの庭に、(54・5)

③ 柑子の木の、枝もたわわになりたるが(54・5)

- ア 主格を表す格助詞
イ 連体修飾語を作る格助詞
ウ 同格を表す格助詞

4 「この木ならましかば」(54・6)のあとに省略されている言葉

葉を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア よからず。
イ よかりけり。
ウ よきなり。
エ よからまし。

1 次の——線部の主語をそれぞれあとから選び、記号で答えなさい。(同じ記号を何度使ってもよい。)

①ある山里に尋ね入ること待りしに、(54・1)

②心細く住みなしたる庵あり。(54・2)

③周りをぎびしく囲ひたりしこそ、(54・6)

ア 筆者

イ 庵を訪れる人

ウ 庵に住む人

--	--	--

2 「つゆおとなふものなし。」(54・3)の表す意味として適切なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア まったく訪れるものもない。

イ まったく音を立てるものもない。

ウ 露でぬれた庭を訪れるものはない。

エ 露にぬれた人が訪れることはない。

--	--

3 「かくてもあられけるよ」(54・4)の口語訳として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア このように菊や紅葉を仏に供えて修行をされているのだなあ。

イ このように菊や紅葉を飾ったら住むことができるのになあ。

ウ このように心細げな住まいにも住むことができるのだなあ。

エ このように誰も来ないような山里にも人は住んでいるのだなあ。

--

4 「少しことさめて、」(54・6)とあるが、その理由として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 世捨て人の理想的な住まいを見つけたと思ったのに、柑子の木の周りを嚴重に囲ってあったのを見て、ここに住む人の欲深さを見た気がしたから。

イ 世捨て人の理想的な住まいだと思ったのに、柑子の木の周りを嚴重に囲ってあったのを見て、主が柑子の花の美しさを理解しない人だと思ったから。

ウ 人の来ない山里の静かな住まいだと思ったのに、柑子の木の周りを嚴重に囲ってあったのを見て、実を盗みに来る人がいるとわかったから。

エ 人の来ない山里の静かな住まいだと思ったのに、柑子の木に実がたくさん実っているのを見て、多くの人が木の世話をしに来ていると思ったから。

--

5 「この木なからましかば」(54・6)には、筆者のどのような気持ちがおめられているか。次の言葉に続くように、具体的に説明しなさい。

この木がなかったら、

--	--

✓ 振り返ろう

□ 筆者の思いを理解することができた。

□ 随筆に描かれた季節感や人生観について、自分の意見をもつことができた。

言語文化の継承と創造

伊勢物語

芥川／筒井筒

教科書 P.96 ~ P.103

目標

●物語に表れた心情表現を
考える

検印

【芥川^{あぐがは}】

全体の構成を理解しよう

<p>女を盗み出した男 (初め〜97・2)</p>	<p>男と女の逃避行 (97・2〜終わり)</p>
<p>男…長年にわたり求婚し続けてきた女（高貴な姫君）を盗み出す。</p> <p>←</p> <p>女…草の上の光る露を見て、「かれは何ぞ。」と問う。</p> <p>男…無言（早く逃げたいという必死の思い）。</p> <p>男…天候や行程に追い詰められる。</p> <p>←</p> <p>男…女を蔵の中へ押し入れ、戸口を守る。</p> <p>←</p> <p>女…鬼に一口で食べられる。</p> <p>←</p> <p>男…翌朝、女がいないことに気づき、嘆く。</p>	<p>男…翌朝、女がいないことに気づき、嘆く。</p>

語句を確認しよう

1 次の——線部の読みを現代仮名遣いの平仮名で書きなさい。

① からうじて

[] []

② 率て行きければ、

[] []

2 次の語句の意味を調べなさい。

① え〜打消

[] []

② わたる

[] []

③ 率る

[] []

④ いみじ

[] []

⑤ いたし

[] []

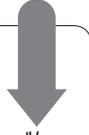
⑥ やうやう

[] []

⑦ かひなし

[] []

文章の理解を深めよう



物語に表れた心情表現について、考えを深めよう。

1 女に「かれは何ぞ。」(97・1)と問いかけられ、男はどういう行動をとったか。次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 女の声が聞こえなかったので、問いかけには答えなかった。
- イ 暗い中を逃げるのに必死だったので、無言でいた。
- ウ 問いかけの意味がわからなかったので、考えこんだ。
- エ 女が白玉を知っていることに驚いて、黙りこんだ。

2 「白玉か：」(98・3)の和歌には、「男」のどのような気持ちが表れているか。次の1・2の問いに答えなさい。

1 「白玉か何ぞと人の問ひし時」とは、どういうことか。次の空欄にあてはまる語句を、それぞれ本文中から抜き出しなさい。

・草の上の ① を ② ですかと ③ が聞いたとき。

2 この歌には、「男」のどのような気持ちがこめられているか。次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア やつと手に入れた女に逃げられるくらいなら、自分で女を消してしまえばよかった。
- イ 女に求婚を断られるくらいなら、自分の恋心を消してしまえばよかった。
- ウ やつと手に入れた女に裏切られるくらいなら、女との思い出を消してしまえばよかった。

エ 女がない悲しみを味わうくらいなら、自分も死んでしまえばよかった。

文法を確認しよう

1 次の——線部の助動詞について、a終止形、b活用形を書き、c意味をあとから選び、記号で答えなさい。

- ① 夜も更けに|ければ。 a [] b [] c []
- ② え聞かざり|けり。 a [] b [] c []

2 次の——線部の助詞の意味として適切なものをあとから選び、記号で答えなさい。

- ① 女のえ得まじかりけるを
- ② 人の問ひし時

3 次の——線部の意味として適切なものをあとから選び、記号で答えなさい。

- ① 「かれは何ぞ。」となむ男に問ひける。
- ② はや夜も明けなむと思ひつつ

- ア 添加の副助詞
- イ 強意の係助詞
- ウ 願望の終助詞

SSD 三省堂

公式 Twitter  @sanseido_kokugo

「高等学校教科書のご案内」サイト
<https://tb.sanseido-publ.co.jp/hspr/>

